



大震災の被災地、宮城県の大田原で、瓦礫の撤去を手伝うボランティア活動に参加した。現地の惨状と並まない復讐を肌で感じ、ショックを受けながらも、「被災地支援を続けたい」「見聞きしたことを丹波の人に伝えたい」との思いを胸に帰郷。さっそく、17-19日には「モーレ丹波の森」で、原発事故の影響を受けている福島県の子もたちを受け入れる「サマーキャンプ」で「モーレ」キャラバンした。22-27日、青垣で「募金を募る募金活動を手伝った。」(菅田安生)

東日本大震災

「被災地の様子を見て、現地のボランティア「被災地の様と一緒に、瓦やガラス、子を伝えたい」とコンクリートの破片、タという思いをイルなどを手作業で仕分けした」とい



「被災した子どもたち10人以上を対象とする。1人1日あたり1000円とし、1人10日以内、また上限50万円以内。今年度中に実施分を想定している。市は、丹波の被災した子どもたちの元気を取り戻しても

被災者支援に現地へ

福呼ぶフクロウ彫る

フクロウを彫る塚原さん



被災者を元気づけよう、フクロウを仲間17人と揃と、丹波子エンタープライズを主演し、集まった人トスクールを主宰する塚原さんたちを募集した。原智智さん(青垣町中佐津波で流され、玉切り治)が13、14の両日、津にされたアカマツの大木波被害を受けた仙台市宮城野区を訪れた。20年ぶりに、幸福を願うフクロウに彫られた同市立岡田小学校区の盆踊りのオーの制作実演とあって、塚

復讐が思っていた以上に、同様に現地に進んでいないことに驚で活動した八尾明梨さん(1年)は、「他人」といいたという部長の山内美貴さん(2年)は、「瓦と一緒に出てくるサンと身近に感じた」と言い、ダルやコップなどを見た、現地の人と話すなか「またまた現地への支援が強く感じた」と、募で「手を大きくしてしまきたことを伝えたい」とえかけていた。話す。谷川千菜美さん(同)は、「現地へ行くまでは、この人(こ)だった。丹波で活動し、「募金を

「サマーキャンプ活動の募金を呼びかける部員たち「モーレ丹波の森で」

「被災した子どもたち10人以上を対象とする。1人1日あたり1000円とし、1人10日以内、また上限50万円以内。今年度中に実施分を想定している。市は、丹波の被災した子どもたちの元気を取り戻しても

チェーンソーアート

仙台で実演 塚原さんの青垣

塚原さん(青垣)は、玉切り治(13)と津波で流されたアカマツの大木波被害を受けた仙台市宮城野区を訪れた。20年ぶりに、幸福を願うフクロウに彫られた同市立岡田小学校区の盆踊りのオーの制作実演とあって、塚

「このフクロウが一体何導を見かけた祭りの参加人のいやしになるのかと、昔に「前日の抽選に漏れることはないだろうが、思うと、感謝の気持ちで、ま、プレゼントする」と、話を聞いた人が次々と訪と話した。(足立智和)

「被災した子どもたち10人以上を対象とする。1人1日あたり1000円とし、1人10日以内、また上限50万円以内。今年度中に実施分を想定している。市は、丹波の被災した子どもたちの元気を取り戻しても

「14日は、塩害で立ち枯れた木を使い、同チームで30体のフクロウ像を制作した。」

「塚原さんは、「それどころじゃない、と言われるかと思っただ、珍しかったからか、とても喜んでもらえ、やりがいを感じ

んばスポーツ

見さん(見)・九里さん(美)

九里さんは、跳馬で13・45と、2位に0・45の差をつけ優勝した。初めてん。高見さんは、「ジャ



手たち

「に思え、選手のプレートを

「被災地から来た2人も元

TANBA SPORTS

「20代」
「来木」
「72-0323」